



THE GOSPEL NEWS

在日大韓基督教会
宣教100～110周年

標語

感謝の百年
希望の百年

(テサロニケ第1/5:18)

1963年9月20日 第3種郵便物許可 (毎月一日発行)

2016年8月1日(月) 第754号

発行所 福音新聞社 (1部100円)

〒169-0051 東京都新宿区西早稲田2-3-18

☎03-3202-5398 info@kccj.jp

発行人/金性済・編集人/金柄鎬

印刷所 青丘文化社

平和統一
主日説教

二つが一つになるように してください

＜ミカ書 4:3＞



鄭然元 牧師 (宣教委員長、大阪教会)

「主は多くの民の争いを裁き／はるか遠くまでも、強い国々を戒められる。彼らは剣を打ち直して鋤とし／槍を打ち直して鎌とする。国は国に向かって剣を上げず／もはや戦うことを学ばない。」

26年前の1990年7月、車で成田空港に向かう私は非常に興奮していました。私の人生で初めて北朝鮮から来る人々と出会う日だったからです。北朝鮮から来られる朝鮮基督教徒連盟一同を迎える為に車を走らせ空港に出迎える時間でした。

今は故人の高基俊牧師(朝鮮基督教徒連盟書記長)及び4名の訪問団は「第1回祖国の平和統一と宣教に関する基督者東京会議」に参加される為の代表でした。そして7月8日代表の一人、趙吉男牧師(朝鮮基督教徒連盟中央委員)が、当時私が奉仕していた東京中央教会にて主日礼拝を共に捧げ、言葉を送ってくださいました。私は信徒の方々に「北に住んでいる人々は頭に角が生え顔色も赤いと思っていたのに実際に会ってみると赤くも角もなく私たちと同じでした。北朝鮮から来られた牧師先生を歓迎しましょう!」と紹介しました。

7月10日(火)南北の指導者と海外教会代表団は、東京YMCA 9階の講堂に於いて、アリランの歌が流れる興奮の中、講堂に入場しながら手を洗う礼式を行いました。その間の同胞民族を愛せなかった過ちを悔い改め、イエス様が弟子たちの足を洗われたように私たち自身の罪を告白し、苦い水を飲みました。

創世記33章、兄であるエサウから長子の権利を奪ったヤコブが兄の怒りから逃れ、叔父ラバンの家に避難してから20年ぶりに故郷に帰って来ました。それゆえに心の中はまだ兄のエサウの怒りに怯え、ヤコブは自分の知恵を掻き集め兄エサウを試そうとしました。しかし兄エサウに無条件に受け入れられ、双子の兄弟の会いは自然に営まれました。許しと和解が成し遂げられた時にヤコブは告白します。「あなたが喜んでわたしを迎えてくださるので、あなたの顔を見て、神の顔を見るように思います。」

南北の指導者達と世界から集まった代表達の心には、誰のせいなど言い争う心など、なに一つも見られませんでした。許しと和解が成し遂げられた場所となり、何度も修正した合同祈禱文を捧げました。1行1行読んでいく瞬間、目から涙が止まりませんでした。北の百頭山から持って来た木の枝と南の漢拏山の枝とで十字架を繋ぎました。

預言者エゼキエルは神様から受けた御言葉を伝える時、

イスラエルとユダの名前を書いた枝を各自持って来て2つを1つに合わせなさいと言いました。これは分断された北のイスラエルと南のユダが互いに連結し、統一された1つの姿を象徴的に見せてくださったのです。神様は言われました。「あなたの手の中で2つが1つとなる」。まさにこのことを確認する感動溢れる時間となりました。北と南からそれぞれ持ってきたぶどう酒を1つの器に入れ、当時の総会長金榮植牧師、北の金雲鳳牧師(朝鮮基督教徒連盟平壤市副委員長)合同司式で聖餐式をとり行いました。私たちはこのようにイエス様の十字架の血潮ゆえに、1つの兄弟姉妹となったことを再確認する恵みの時間でした。

在日大韓基督教会の主催でこのように始まった「祖国の平和統一と宣教に関する基督者東京会議」は8回実施されました。西暦2000年以降の南北は和解の雰囲気溢れ、政治・経済・文化・宗教など幅広い交流が始まり、私たちの総会はこのような集まりを持つ必要性がなくなりました。

しかし今日祖国の現実と未来を見ると、再びやってきた緊張状態と反目、不信感、政治指導者の間違った判断と平和統一に対する国民の熱気が冷めているのが現実です。北はNUの制裁にかかわらず核実験を続け、南は北との対話の窓を開けにくい状態が続いています。祖国が分断され71年を迎えるにあたり、南北の交流は遠くなってしまい、民族の解放の歓喜が長い溜息になってしまった今、私たちは、特に海外で生きている私たち海外同胞にできる事は何か?

私たちは再び、かの日のように胸打つ鼓動を聞き、その興奮を味わいたいのです。南と北、また世界中から走って来た教会の指導者達と私たち日同胞が1つとなり「われの願いは統一、夢にも願う統一」と統一を願い祈る心で統一の歌を歌いたいのです。

預言者ミカは私たちに神様の御心を伝えました。「彼は多くの民の間をさばき、遠い所まで強い国々のために仲裁される。そこで彼らはつるぎを打ちかえて、すきとし、そのやりを打ちかえて、かまとし、国は国にむかつてつるぎをあげず、再び戦いのことを学ばない。」

私たちは切に、「神様私たち民族の間にある紛争を仲裁してください。周辺の強い国の間のいざこざを止めてください。膨大な殺人兵器を捨て、平和の為の道具を作り、共に生きる平和な朝鮮半島と世界となるようにしてください」と祈りましょう。

平和統一主日を共に過ごす全国教会の信徒の祈りが叶う日が来ることを期待し前進しましょう。

2016年 日本基督教団・在日大韓基督教会 平和メッセージ

日本基督教団総会議長 石橋 秀雄

在日大韓基督教会総会長 金 性 済

「はっきり言うておく。わたしの兄弟であるこの最も小さい者の一人にしたのは、わたしにしてくれたことなのである。」

(マタイによる福音書25章40節)

わたしたち日本基督教団と在日大韓基督教会は、アジア・太平洋戦争における罪責を神の前に想起し、近隣諸国への侵略と植民地化政策により多大な苦しみを与えたことを心からお詫びし反省しつつ、平和の主イエス・キリストによる和解と平和を祈ります。そして、武力・戦争への道に対して明確に否を唱える平和の道と、平和と福祉を例外のない全ての人と分かち合う共生社会構築の道を模索してゆきます。弱者を切り捨てるのではなく、マイノリティの叫びの中にイエス・キリストが呼びかける声を聞かなければならないと確信します。

ヘイトスピーチのない平和と共生の社会を

日本社会ではこれまでも、朝鮮学校に通う女子生徒の制服が切り裂かれるなど、在日コリアンをはじめとするマイノリティに対する差別と暴力が繰り返されてきました。今日では、差別・排外主義的な主張を標榜する団体により人種的憎悪や民族差別を煽動するヘイトスピーチが公然と繰り返され、言葉によって恐怖と苦痛を与え続けています。このようなヘイトスピーチを規制する法律が今年5月に成立しましたが、禁止はせず罰則もなく、規制対象は「本邦外出身者に対する不当な差別的言動」に限定され、アイヌや沖縄・被差別部落などのマイノリティへの差別的言動は規制対象となっていないなど、課題も少なくありません。このようなヘイトの現象が2009年以来、執拗に持続することは、現代日本の政治が個人の基本的な人権を保障し戦争放棄を誓う憲法を揺るがそうとする極右的な勢力に突き動かされていることと無関係ではありません。在日大韓基督教会は、2015年11月に日本基督教団をはじめとする国内と世界の諸教会と共に第3回「マイノリティ問題と宣教」国際会議を開催し、日本における人種差別の撤廃に向けて、日本と世界のキリスト者が祈りと力を合わせていくことを確認し、マイノリティセンターの設立(2017年4月予定)を決めました。わたしたち日本基督教団と在日大韓基督教会は、ヘイトの中に潜む敵意に対して、歓待と和解の福音信仰に堅く立ち、共生の平和を目指すために世に遣わされ働くことを、現代を生きるキリスト者に託された福音宣教の使命として、ヘイトスピーチの課題に取り組み、この地上に平和と共生の社会の実現を求めていくことを決意します。

原子力発電所のない平和で安全な社会を

東日本大震災から5年が過ぎた今もなお、東京電力福島第一原子力発電所の事故が引き起こした深刻な問題は、いまだ解決されておらず、震災関連死者数も増加しています。そして、いまだ10万人に近い人たちが困難な避難生活を余儀なくされています。それだけでなく、弱者切り捨てともいわれる避難

生活が続く中で、地域の間や避難者と受け入れ者の間に、そして避難生活者同士の間にも葛藤や分断が生じ、人間の尊厳が大きく傷つけられています。

そのような分断状況があるにもかかわらず、まるで原発事故と避難者の存在など無視するかのよう、九州電力は川内原子力発電所1号機と2号機を再稼働しました。熊本地震の際、原発事故を恐れた多くの市民が稼働の一時停止を求めましたが、その声は聞き入れられず、何もなかったかのように稼働が続けられています。また、原子力規制委員会は、40年が経過した関西電力高浜原発1、2号機について、最長20年にわたる運転期間の延長を許可しました。わたしたち日本基督教団と在日大韓基督教会は、再稼働に反対する国民の声を無視して原子力発電所の再稼働を進めていることに強く抗議します。それと共に、日本政府に対して、原子力発電所の稼働を停止し、すみやかに廃炉に向けての処置を取ることを求めます。そして、原子力に依存しないエネルギー政策への転換の取り組みを求める働きかけを継続してまいります。

基地のない平和で非暴力な社会を

わたしたち日本基督教団と在日大韓基督教会は、昨年9月に参院本会議で可決された安全保障関連法は憲法違反であり、同法を廃止して立憲主義に立ち戻ることを日本政府に対して強く求めてまいりました。

それに対し、安倍政権は、熊本地震に便乗してオスプレイを物資運搬に使い、緊急事態条項追加の必要性を主張しています。また、安倍政権の支持母体である日本会議や神社本庁は、「憲法改正に賛同する署名」を初詣客などに広くよびかけ、サミットを伊勢志摩で開催して各国首脳を伊勢神宮に「訪問」させるなど、国家神道の復活と憲法の改悪をもくろんでいます。

このような状況の中で、いま沖縄は苦悶しています。6月19日には、元米海兵隊員に殺害された女性を追悼する県民大会が開かれ、6万5000人の参加者は、基地のない沖縄を望み、「県民の怒りと悲しみは限界を超えた」と悲痛な叫び声をあげました。教会は、この叫びの中にイエス・キリストが呼びかける声を聞かなければなりません。

わたしたち日本基督教団と在日大韓基督教会は、政治の責任を担っておられる方たちが、憲法を守り、この世界における真実の平和の実現にこそ寄与する政治を行うことを強く求めます。また、沖縄の怒りと悲しみの声を聞きつつ、安全保障関連法が廃止されるために、今後も祈り続け、声を上げてまいります。そして、「正義と秩序を基調とする国際平和を誠実に希求し」(憲法第9条)、武力の行使によらない平和の実現のために力を尽くします。

世界の全ての人々の上に、平和の主イエス・キリストの恵みと導きを祈ります。

2016年8月

全国女性会、研修会開催

「主にあってひとつ」主題のもと105人が参加

全国教会女性連合会（以下、全国女性会）は、2016年6月20日（月）～21日（火）までの二日間、箕面観光ホテルで、宣教局と社会局の主催で研修会を行った。「主にあってひとつ～みことばと賛美で次世代につなげよう～」という主題で、105人が参加し、良き学びと恵みのときであった。

開会礼拝は、石橋真理恵伝道師の「主を賛美せよ」という題の説教によって恵み溢れる時として神様を礼拝した。

今回の研修会は、研修主題に合わせ2つの講演があった。第1講演は、コイノニア福音教会の松本（李）善女牧師をはじめ96人の信徒らの賛美から始まり、同教会の高橋悦子長老の挨拶と証し、松本善女牧師が「日本人には日本人のように」という題の講演があった。引き続き、同教会の賛美チームによる賛美とworshipと証し、また研修会に参加された会員らとともに賛美をする形式のセミナーが行われた。

その後、全国女性会が力を入れて取り組んでいる「ナルドの壺」運動の経過報告及び共に献金を捧げる時間を設けた。夕食後には、今回の新しいセミナーについての意見、次世代へ信仰を継承するために、また、青少年らが教会に楽しく来られるようにするための取り組みに対してのグループ毎の討論があった。



二日目の第2講演は、堺教会の牧師で総会の副総会長を務めている金必順牧師により、「聖書・井戸ばた」という勉強会が行われた。テーマは、イエス・キリストの系図に出てくるユダの嫁「タマル」について学んだ。コイノニア福音教会の松本善女牧師と19人の女性信徒も参加して共に多様な視点、観点で聖書を読み、感じた事などを互いに分かち合うことにより、より深く聖書を学ぶことができた。

「聖書・井戸ばた」で学び、恵みを受けたその心をもって閉会礼拝に臨んだ。閉会礼拝も金必順牧師が「福音への応答」という題で説教があった。「聖書・井戸ばた」で学んだ「タマル」のように、人間的な目線では理解できない女性をも用いて、神様の救いはイスラエルのみではなく地の果ての全人類を救われる神様の偉大なる恵みをもう一度感じる時となった。

（報告：書記 宋福姫）

<西部地方女性会>

第31回定期大会を開催

西部地方教会女性連合会の第31回定期大会が4月5日（火）、西宮教会において30名（うち代議員14名）の出席で開催された。開会礼拝は朴英子副会長の司会により始まり、梁榮友牧師（武庫川教会）が「シリア・フェニキアの女の信仰」（マルコ7：24～30）と題して説教された。

午後から、議事に入り、前会議録確認と決算報告があった。空席の副書記に大山京子氏（川西教会）が選ばれた。次年度予算案が承認された後、2016年度活動方針案の予定等が討議された。閉会礼拝は崔美恵子会長の司会で金承熙牧師による

「主は聞いて下さる」（サムエル1：9～20）と題してのメッセージがあり、祝祷をもって閉会した。

（報告：俞貞恵）



<関西地方会>

アシュラム祈禱修養会開催

2016年5月10日（火）～11日（水）、第45回アシュラム祈禱修養会が同志社びわ湖リトリートセンターにおいて関西地方会伝道部主催で開かれた。約90人が参加した今回の修養会で、「祈りと霊性」という主題を持って、林寅植牧師（露梁津教会元老）を迎え3回の講義を聴き、他にも証と祈禱の時間、分団祈禱の時間、早天祈禱会と野外黙想を通して信仰の成長と成熟を試み、恩恵充滿の時間を通してそれぞれ受けた恵みを分かち合った。林牧師は、主なる神の前での祈りの重要性を強調しながら、人との関係と教会生活におけるの和解を取り上げた。「神さまの御前でひざまずける人は人間の前でも跪かなくてはならない。」紛争を経験し、争いで振り回されている韓国と日本の各地の教会への重い言葉だった。

関西地方会では1972年から始め、多忙の日常生活から離れ、御言葉と祈禱に集中するこのような修養会を毎年行っている。

（報告者：李元重牧師）



博多教会

尹善博牧師委任式挙行

崔正剛名誉牧師推戴式も兼ね

2016年6月26日（主日）、博多教会に於いて、尹善博牧師委任式・崔正剛名誉牧師推戴式が臨時堂会長・辛治善牧師の司会のもとで行われた。

開会礼拝では千奉祚牧師の「恵によって強くなりなさい（二テモ2：1）」の説教があり、委任式の司式を朱文洪西南地方会会長により、名誉推戴式の司式を尹善博牧師により執り行った。祝祷の後、2部の祝賀会を行った。

委任された尹善博牧師は、1982年日本の大阪生まれ、関西学院大学神学部、在日総会神学校、また韓国に留学して延世大学校大学院で学んだ。2012年に牧師接手を受け、大阪教会、京都教会で副牧師として仕えた。

名誉牧師として推戴された崔正剛牧師は、1942年日本の福岡で生まれ、1982年牧師接手を受けた。大阪教会で講道師、牧師としては熊本教会、福岡中央教会を経て2004年に博多教会を開拓して牧会をし、2012年に隠退された。



第49回日本基督教団との 宣教協力委員会開催

毎年行われる日本基督教団（以下UCCJ）と在日大韓基督教会（以下KCCJ）との49回宣教協力委員会が、2016年6月6日（月）～7日（火）、静岡県熱海市「ニューウェルシティ湯河原」にて、「両教会の宣教課題と宣教協力～両教会の教職人事と交流～」という主題で開催された。

開会礼拝は、尹聖哲長老（副総会長）の司会で、金性済牧師（総会長）が「沖に漕ぎ出し網を降ろしなさい」（ルカ5：1～11）と題して説教した。参加者の紹介、前回記録確認、両教会紹介や課題と活動が報告された。

夕食後は、趙永哲牧師（書記）の司会で、UCCJの加藤誠牧師（世界宣教幹事）とKCCJの金柄鎬牧師（総幹事）がそれぞれの教会における宣教師の受け入れ問題や牧師人事に関する発題をした。

翌日は、「発題を受けて」の討議と「2016年平和メッセージ」の草案について議論し、両教会の担当者により内容を整えてから8月の「教団新報」と「福音新聞」に掲載することを話し合った。両教会の間の牧師移動に関しては、このような会議を続けて行なうことで、行き来できるシステムや規則を作る必要があると話し合われた。現在KCCJからUCCJに宣教師として派遣されている2名を除き、1名が二重教籍に置かれているのは望ましくないと、UCCJからの声が出された。

閉会礼拝は、UCCJの副議長の佐々木美知夫牧師による「神が行われたこと」（行14：21～28）との題で説教された。

今回の会議にKCCJからは総会長の金性済牧師をはじめ、宣教委員長の鄭然元牧師が参席した。



韓・日5教団宣教師に 関する協議会を開催

宣教師を派遣する韓国の基督教大韓監理会教会（KMC）、韓国基督教長老会（PROK）、大韓イエス教長老会（統合、PCK）と主に宣教師を受け入れている日本の日本基督教団（UCCJ）、在日大韓基督教会（KCCJ）の5教団による宣教師に関する協議会が、去る2016年6月7日～8日、在日本韓国YMCA会議室と日本基督教団会議室で行なわれた。

韓国からは3教団から4名の実務者と日本の2教団からは総会役員と実務者ら20数名が参席して行なわれた協議会には、UCCJからは朴美愛牧師（PCK宣教師、野幌教会）が発題をし、アジア学院、酪農大学、そして野幌教会での宣教師活動が紹介された。KCCJからは金鐘賢牧師（PROK宣教師、浪速教会）が発題を通して日本のホームレスの人たちに対する宣教と牧会を紹介した。

二日目の協議会には、UCCJとKCCJにおける宣教師の状況と課題について報告と討議に入った。韓国の3教団からUCCJに派遣されて活動している宣教師の人数は11名で、KMCから6名、PCKから3名、PROKから2名であり、韓国3教団からKCCJに派遣されている宣教師は30名であり、PCK16名、KMC12名、PROK 2名である。

派遣された宣教師たちが派遣先の教会(教団)での宣教(牧会)活動ができる適応訓練プログラムの開発、インターン期間を設ける必要性などを韓日の5教団が共有し、このような協議会を重ねて行ないつつ進めていくことが協議された。次回協議会は2017年2月20日～21日、ソウルのPROK会議室で行なうことにした。



京都東山^{伝道所}が教会昇格

1994年創立以来、22年ぶりに喜び

2016年7月17日（主日）、京都東山教会昇格が関西地方会長の金鐘賢牧師によって宣言された。

京都東山教会は、1994年9月4日、故・羅曾男牧師により、在日朝鮮基督教会田中伝道所の再創立として創立された。初め日本キリスト教会吉田教会の礼拝堂を借りて礼拝を行い、京都大学学生会館などに移りながら2012年から現在の場所に至っている。

羅曾男牧師の引退後は李相勳牧師が牧会し（2004年～2007年）、現在の李元重牧師は2008年から奉仕し、2012年に委任式を行なった。昇格式は、李元重牧師の



司会で始まり、裴良一長老の祈祷、総幹事金柄鎬牧師の説教、全聖三牧師の勸勉、また同志社大学校教授の原誠牧師が祝辞を述べるなど、多くの来賓が参席して行なわれた。

●青年会全国協議会●

第67回夏期修養会案内

- 日時：2016年8月10日（水）～13日（土）
- 場所：VIPアルパインローズ・ビル（兵庫県篠山市遠方16-3）
- 参加費：¥30,000（交通費8割負担いたします）
- 主題：～喜び、痛みを分かち合い共に伝道し合う青年～
- 講師：李善恵牧師（同志社大学院社会福祉博士）
- 主なプログラム：礼拝、講演、発題、交流会、分団ワーク、映画観賞、花火大会など。
- 問い合わせ：＜代表＞白勝和090-9879-3696、
＜総務＞呉眞雅090-9984-9584
- E-mail：faterinsakuracard@gmail.com
yeppikopiuyu@yahoo.co.jp

在日コリアン文化の創造と多文化共生社会を目指して、在日本韓国YMCAは皆様と共に歩みます。



- 東京◆ホテル：東京で一番安く便利な宿泊研修施設。フロントは日・韓・英語に対応、24時間営業。10名様～200名様会議及び宿泊研修（50名）も可能。
- ◆スペースYホール：200席の多目的ホール。セミナー・コンサートなどに対応。
 - ◆韓国文化教室（チャング・カヤグム・舞踊） ◆韓国語講座 ◆各種こどもクラス
 - ◆YMCA東京日本語学校（3ヶ月～2年、短期研修）
- 関西◆にほんご教室（新規開講・募集中） ◆韓国民俗芸術科（舞踊・チャンゴ）

在日本韓国YMCA <http://www.ymcajapan.org/ayc/jp/> *会員及び教職者割引有。詳しくはお問い合わせください。

東京韓国YMCAアジア青少年センター 〒101-0064 東京都千代田区猿樂町2-5-5 ☎03-3233-0611
関西韓国YMCAアジア青少年センター 〒537-0025 大阪市東成区中道3-14-15 ☎06-6981-0782

税込	平日	休・休前日
シングル	¥6,500	¥6,000
ダブル	¥10,500	¥9,700
トリプル	¥13,500	¥12,500

※朝食・コーヒー¥200（宿泊者価格）